

卒業生、修了生諸君へ

学長 中嶋 嶺 雄
(国際関係論)



卒業生諸君、修了生諸君！ おめでとう。本学での学園生活もまたたく間に終わって、今、新しい人生の門出に臨もうとしている諸君の前途を祝し、心からのお慶びを申し上げたい。

就職して社会に旅立つ諸君も、進学や留学を決めた諸君も、また留学を終えて帰国する諸君も、そしてまた暫く自由な青年期を過ごそうとする諸君も、これからは自らの責任で立ち、未来に向かって大きく飛翔して行ってほしい。優秀な諸君のことであるから、永い歴史と伝統を誇る本学の卒業生、修了生にふさわしい豊かな人生を切り拓いていくものと確信している。

諸君もご承知のように、21世紀を目前にして、私たちの同時代史には今、大きな変動が起こっている。このような変動に対応すべく、社会のあらゆる分野で根本的な改革と真に創造的な挑戦が不可欠になっているといえよう。そうしたなかで、国際環境や情報環境は、ますますボーダーレス化しつつある。そのような変動の時代にこそ、諸君が本学で学んだ言語や専門諸科目が本当に身につけているのか、果たして有効性を持ち得ているのかが、いよいよこれから本格的に問われるのだ。いずれにせよ、21世紀の国際社会の担い手としての自覚をもって、それぞれの道を大胆に歩んで行ってほしい。

諸君の多くは、近い将来、国際交流や国際接触の第一線に立ち、国際的なリーダーの一員になってゆくであろう。この場合のリーダーとは、自分の意見や考えをきちんと持ち、それを十分に表現できる外国語の運用能力を身につけた人材だといえよう。その際、異文化間・異文明間の文化摩擦や文明の衝突

が目立ち始めている今日の国際社会において、諸君が本学で学んだ学問的な蓄積とノウハウは、大いに有意義なものとなるに違いない。どうか

本学の卒業生、修了生としての誇りをもって、存分に活躍していただきたい。

ところで、激動の国際社会にあって忘れてはならないことは、国際関係における道義 (morality) という問題である。この道義とは、要するに、グローバリズムの立場に立って—グローバリズムについては様々な見方があるにせよ—人類の公共財を保守し、発展させてゆくことだと私は考えている。そして、このような理念を欠如したまま国家エゴイズムに身をゆだねる国民とその国家は、決して国際社会の信頼を得られないであろう。諸君は、この点に留意して広く世界に視野を開き、当面の日本を、そして留学生諸君にあっては自分たちの母国を品格ある「高信頼社会」にすべく努力していただきたい。

最後に、諸君は21世紀最初の本学の卒業生、修了生であるばかりか、本学が懸案の府中新キャンパスへ移転してから最初の卒業生、修了生である。その意味でも諸君は一つの記念すべき区切りを背負って、いま本学を去ってゆく。その自負をもって元気に頑張ってほしい。

諸君！ 本当におめでとう。

「外大生 + α を目指して」

東アジア課程中国語専攻4年

宮西 靖

気付けばあと3ヶ月足らずで、4年間の大学生活がその幕を閉じようとしています。ここ東京外国語大学で中国語を専攻してきた私ですが、4月からはソフトウェア会社でシステムエンジニアとして働くことになりました。入学当初には想像もしなかったことです。

とりあえず英語以外に何か言語を徹底的にやってみたい、といういい加減な動機で受験した東京外大の中国語専攻ですが、入学後の授業は想像を絶するものでした。一週間に6コマの中国語、副専攻の英語2コマを加えれば語学は週に8コマ。おまけにその殆どが、授業中にバシバシ当てられるので要予習…と、まるで高校時代の授業に逆戻りしたような感覚でした。10課終わるごとに課されるテストの直前には、テキストに掲載された10課分の短文を全部覚えなくてはいけないため、学校からすぐ近くの私の部屋で、友人一堂で徹夜勉強会が行われたりもしました。

そんな語学漬けの日々を続け、ふと気付いたら3年生、就職活動と卒業論文の題目を考えねばならない時期でした。色々な就職情報サイトに登録してはみたものの、膨大な量の就職情報に戸惑うばかり。苦悩する中で出てきた一つの選択肢が「システムエンジニア」でした。昔からパソコンをいじるのが好きだった自分だったら、一日中画面相手の仕事にも向いているだろうと考えたのです。システムエンジニアの採用スケジュールは非常に早く、2月の前半には最初の筆記試験の結果がすでに届いていました（落ちていました）。春休みの間も、一日残らず東京各地を駆けずり回っていました。一方で頭の片隅では、「中国語を3年間ずっとやっておきながら、それが活かさない職業に就いてしまって良いものだろうか？」とも考えていました。そうして活動が続ける中で、「最近では、プログラムを打たせる仕事を

中国やインドのソフトハウスに委託する会社も少なくない」という事が次第に判って来ました。ちょうどそれは、私が卒業論文で中国のIT産業について調査しようと考え始めていた時期でした。自分の中で歯車が噛み合ったような気分でした。5月には、今の内定先から「中国語が話せるエンジニアが欲しい」ということで内定通知を頂くことが出来ました。

就職活動を行う中で気付いたのは、外大生には「語学プラスアルファ」が必要だ、ということです。もちろん、就職のためだけに、というわけではありません。語学は最終的にはひとつのツールにしかならない場合が多いです。そうした時に必ず「～語を使って何をするのか」が大切になってくると思います。私の場合はパソコンでしたが、何だっというと思います。

さて、これを読んでいる方の中には、むしろ「語学」がヤバイ！という方もいるのではないのでしょうか。私自身も、内定先の会社の期待に応えられるだけの中国語力が身についているかどうか？もう残り時間は3ヶ月ありません。さあ困った！



東外大ニュース No. 106

